

多賀城市体育協会
30年のあゆみ

多賀城市体育協会のあゆみ

多賀城市体育協会30年のあゆみ

＜夜明け前＞

昭和39年、「東京オリンピック」を機に国民のスポーツ熱はいやがおうにも盛り上がり、スポーツの振興と国民の体力向上を目指したスポーツ人口底辺拡大のため、国は市町村体育協会の設立を強力に推進しました。これを受け宮城県でも「県内全市町村に地域体育協会の設立を！」をスローガンにその設立を各市町村に働きかけ、次々に市町村体育協会が誕生しました。時は昭和40年代前半です。

この時期、多賀城町（当時）はスポーツ環境も十分とはいえず、またスポーツ団体も少数で特に横断的な交流もなく、その活動主体を隣接する塩竈市に大きく依存している状況でした。

このような中、熱意ある町内スポーツ団体代表者が集まり昭和43年2月「体育協会結成懇談会」を組織し体育協会設立へ向けた大きな一歩を踏み出しました。

＜体育協会の誕生＞

懇談会の議論、県からの指導、町からの支援等様々な取り組みがあり、紆余曲折を経て昭和44年3月、10団体、581名の会員により「多賀城町体育協会」が設立しました。

宮城県当局による設立の働きかけから実に2年が経過しておりました。

設立当初加盟団体

番号	団体名	代表者	会員数
1	スキークラブ	高橋正吉	150名
2	バレーボール協会	渡辺綱夫	20名
3	山岳会	鞠子蓮一	35名
4	家庭バレーボール協会	郷家幸作	56名
5	サッカー愛好会	鈴木源	30名
6	柔道連盟	本郷清輔	30名
7	剣道連盟	佐々木仁之助	180名
8	古武道連盟	安住仁太郎	30名
9	銃剣術愛好会	高橋正吉	44名
10	射撃クラブ	浅沼良	6名

《設立当初》

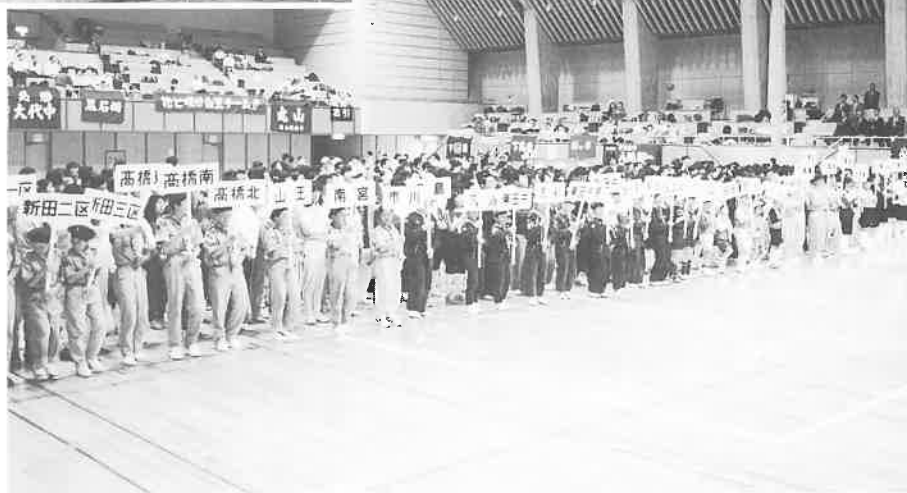
難産の末ようやく設立した体育協会でしたが、その運営についてはまだまだ未熟で、年間予算275,000円で競技力向上やスポーツテストのための実技研修会を細々と実施しており、また単位協会も自主的な大会の開催が困難で塩竈市で開催される大会への参加が主な活動でした。このような中、昭和46年1月には宮城県体育協会への加盟が承認されます。

《成長期》

「健康で楽しく生き生きと暮らしたい」という生活の質の向上を求める国民的傾向は、余暇時間の増加と相まってスポーツ活動を活発にし、これに呼応して各種目協会が生まれ、会員も増加しました。成長期の協会は時代の要請に応えるべくこれまでの「連絡組織」的性格から脱却し、独自に事業を行う「実施組織」へと転換します。

昭和55年にはこれまで市が行っていた市民球技大会に共催として関わり、各競技を加盟協会が主管して実施することになり、昭和63年からは市民総合スポーツ大会と名称、内容を変え、市から委託を受け協会主催で実施するに至りました。

また、昭和58年度からは市の機構改革により公民館にあった事務局を体育課へ移し、併せて増加する事務を円滑に処理するため協会専任の事務局員を配置するようになりました。



一方、移り変わるニーズに対応し協会の活動をより促進すべく、これまで2度にわたる会則の全面改正を行っており、平成8年度の改正では財務、会計を総括的に審議、運営する総務委員会と各種競技会を企画、運営する競技委員会を設置しました。

試行錯誤の出だしから市民の皆様のご理解とご協力、市当局のご指導により着々と充実、発展して参りました。

《円熟期の今》

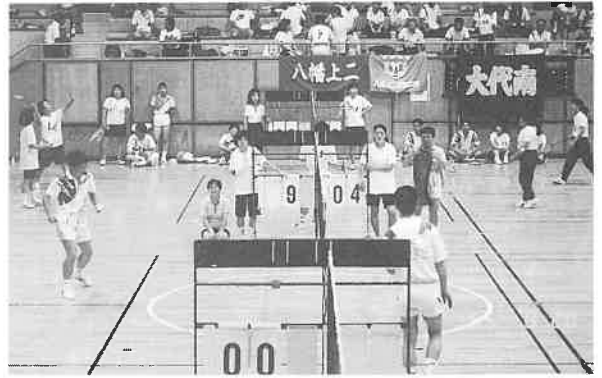
設立から30年が経過した今日、協会は25団体、4,000名の会員を要する組織に成長し、まさに円熟期を迎えております。単位協会の活発な活動は目を見はるものがあり、協会も自主事業の他、委託事業、収益事業とスポーツの振興に邁進しております。

特に、協会の目玉事業である市民総合スポーツ大会は平成10年度で11回目を数え、市民の間にも定着しスポーツの振興、コミュニティの増進に大きく貢献していると市内外から高い評価を頂いております。



多賀城市体育協会加盟団体一覧

No.	名 称	代表者名	No.	名 称	代表者名
1	早起き野球協会	阿部 福次	14	なぎなた連盟	安住 政之
2	ソフトボール協会	岡崎 松夫	15	少林寺拳法連盟	鈴木 和夫
3	ゲートボール協会	川崎 直一	16	弓道会	黒川 正義
4	ソフトテニス協会	山本 平	17	空手道協会	三浦 正義
5	バレーボール協会	鈴木 和夫	18	ボウリング協会	鈴木 康弘
6	卓球協会	三浦 正義	19	硬式テニス協会	荒木 朱美
7	バドミントン協会	鈴木 治子	20	合気道協会	小坂 三夫
8	スキークラブ	渡部 武雄	21	水泳協会	亀山賀寿夫
9	山岳会	浜田 久晴	22	アマチュアダンス協会	武田 享
10	剣道連盟	江口 幸	23	FUNRUN多賀城	亀山賀寿夫
11	柔道協会	斎藤 敬次	24	グラウンドゴルフ協会	山口 善男
12	銃剣道連盟	安住 政之	25	スポーツ少年団	松田 孝昭
13	居合道連盟	木村 功策			



《そして未来へ》

スポーツに対する市民の潜在的欲求は非常に強くまた多様化傾向にあります。同時に少子高齢化社会の到来、学校週5日制の導入等社会環境も変化しており、より豊かな暮らしを実現するためスポーツが大きな役割を担っております。こうした状況を受け、さらなるスポーツの振興に努力しなければなりません。

多くの方がスポーツを楽しみ、みんな元気で仲良く生き生き……。そんな地域社会創造の一助となるよう今後とも体育協会はガンバります。